

「ラチャパットの観光学科のための観光日本語用シラバス」作成について

長町聡子・中村 照・松原 昭・山川紀子

1. はじめに

現在タイには、約 70 のラチャパット大学がある。ラチャパット大学とは元教員養成大学であり、2003 年まではタイ国教育宗教文化省ラチャパット局の管轄下にあった。現在はそれぞれが独立し、他の大学と同じように大学省の管轄の下、独自に運営している。日本語科目を開講しているラチャパットは現在 40 校を超えており、多くは副専攻や選択科目などが開講されている。さらに、現在では、主専攻が開設されているところも増えてきている。

以前ラチャパットはラチャパット局管轄の下にあったが、ラチャパット同士の横の繋がりはなく、カリキュラムや教授内容の統一がなされていなかった。日本語科目を開講するラチャパットが増えてきた中で、2001 年 7 月にチェンマイラチャパット大学でラチャパット内の日本語教育に関するセミナーが開かれ、ラチャパット全体として日本語教育を考えていくことが必要ではないかと話し合われた。そして、ラチャパットの日本語教育の発展を目的に、2001 年 12 月、「ラチャパットの日本語教育を考える会（略称ラチャ会）」が発足した。ラチャ会では年に 2 回総会を行っている。それと同時にセミナーを開催し、情報交換やラチャパットに共通する問題の解決を図っている。

本稿に記載する「ラチャパットの観光学科のための観光日本語用シラバス」（以下、RU 観光シラバス）作成は、このラチャ会総会セミナーでの話し合いがきっかけで始まったものである。

2. シラバス作成の経緯

ラチャ会総会と同時開催のセミナーでは、設置科目別（主専攻・副専攻・自由選択科目・観光学科の選択科目）に分かれて話し合う分科会が、第 3 回（2002 年 12 月）、第 4 回（2003 年 6 月）、第 5 回（2003 年 12 月）と 3 回のセミナーで行われた。観光学科の選択科目についての話し合いの中で、各ラチャパットの観光学科の状況や問題点が話し合われた。

ラチャパットの観光学科では 1 学期に 1 科目、全部で 6 科目の日本語科目を履修することになっており、各校により違いはあるが、基礎日本語 1, 2、会話 1, 2、観光日本語 1, 2 としているところが多い。学習時間は 1 学期 15 週、1 コマ 50 分授業で、基礎日本語が週 4 コマ、会話と観光日本語は 3 コマである。ほとんどのラチャパットが週 1 回、3 コマ、4 コマを連続で授業しているという状況であった。

その中で、観光日本語の科目が難しすぎるということが問題として挙げられた。観光日本語を履修する前の、4 科目の学習時間は約 150 時間で、初級の前半終了程度である。また、週に 1 度

しか日本語の授業がないため、学習内容がなかなか定着していない状態である。そのような学生にとって、観光場面で使用される日本語は非常に難しい。また、市販の観光用の教科書では難しすぎる。観光場面で使える日本語を教えたいが、学生のレベルに合った教科書もなく、どのようなことを教えればいいのかもわからない、ということが共通した問題であった。

そこで、ラチャ会では、ラチャパットの観光学科の学生のレベルに合わせ、教えるべき場面、文型、表現をわかりやすくまとめたシラバスを作成することにし、第6回ラチャ会総会（2004年7月）でのセミナーで、シラバス作成を開始した。このセミナーでは、これまでのセミナーで話し合われた観光学科の問題点を見直し、セミナー参加者全員で場面、文型、表現を列挙した。その後、有志の集まりでシラバス作成委員会を発足し、シラバスの作成を引き継いだ。

3. シラバス作成の過程

第6回ラチャ会総会セミナー後は、セミナー参加者によって挙げられた場面、文型、表現を基に、シラバス委員で作成が進められた。メーリングリストを作成し、連絡は主にメール上で行った。月に1度の割合で集まり、シラバスの作成に当たった。

3.1 作成（2004年8月～2004年12月 シラバス作成委員7名）

シラバス作成委員会では、まず、各場面の目標、文型、表現、語彙をまとめたシラバスを作成した。以下に作成過程を記す。

- 手順1 ラチャ会セミナー時に挙げられた場面を検討し、ホテル場面、ガイド場面に分けて整理した。ホテル場面8場面、ガイド場面10場面の計18場面で、各場面に①～⑱の通し番号をつけた。
- 手順2 場面を分担し、各委員がラチャ会セミナー時に挙げられた文型、表現を基に会話例を作成した。そこから、学習項目として取り上げたい文型、表現、語彙を列挙した。
- 手順3 委員全員で会話例、文型、表現、語彙を検討し、まとめた。
- 手順4 提出されている文型、表現が他のどの場面で使われているかを示すため、項目毎に、その場面以外で提出されている場面の番号をつけた。

会話例作成に当たり、主に参考にした教科書は『ガイドの日本語1』『ガイドの日本語2』『サービス日本語－ホテルスタッフ編－』の3冊である。

シラバス作成後、第7回ラチャ会総会（2004年12月）、第17回タイ国日本語教育研究会年次セミナー（2005年3月）でシラバス作成に関しての発表を行った。またいくつかの教育機関で観光日本語の授業にシラバスを使用していただいた。発表の場でいただいた意見や指摘、また、シラバスを使用した感想などを基に、シラバスを改訂することになった。

3.2 改訂（2005年3月～2006年1月 シラバス作成委員4名）

会話例を基に、シラバス内の文型、表現、語彙を再検討し、文型や表現につけた場面番号を整

理した。また、発話や動きの流れを示すフローチャートを作成した。フローチャートは会話例を基に、ホテル従業員及びガイド（学生）の発話内容と動き、客の動きの流れに従ってまとめた。シラバス作成時と同様に、委員で場면을分担して各自が作成し、委員全員で検討するという方法を取った。

ここでは、シラバス、フローチャート付きシラバス、会話例の3部を作成し、RU 観光シラバスを完成させた。

4. RU 観光シラバスの特色と使い方

RU 観光シラバスは場面シラバスを採用し、ホテル場面8場面（①チェックイン②部屋まで、部屋の説明③ホテルのサービス④苦情・トラブル⑤チェックアウト⑥レストラン⑦ホテルの予約⑧ツアーの紹介、予約、キャンセル）、ガイド場面10場面（⑨出迎え⑩バスの中で⑪日程説明⑫観光＜お寺＞⑬観光＜遺跡＞⑭タイ料理⑮お土産を買う⑯トラブル＜盗難・紛失＞⑰トラブル＜病気＞⑱見送り）の計18場面からなる。この18場면을観光日本語1,2の2科目で学習できるようになっている。場面毎に、目標、文型、表現、語彙、フローチャートがある。実際に授業で使用する場合、各ラチャパットの状況に合わせて、場面の順番の入れ替えや削除等が可能なように、文型、表現は、初出のものだけではなく使用すると考えられるものは全て載せてある。さらに、文型シラバスとしても使用可能なようにと考え、他の場面で同じ文型や表現が使われている場合は、その場面の番号を後ろに示した。（本稿末の資料2を参照。例：文型「お／ご～します／いたします②③④⑧⑩⑪⑮」。「お／ご～します／いたします」は①の場面のほかに、②③④⑧⑩⑪⑮の場面でも使用されている。これを見ることにより、その文型、表現の使用頻度も分かる。）

5. 使用状況アンケート結果

2005年11月、RU 観光シラバスの使用状況アンケートを行った。これは、第7回ラチャ会総会（2004年12月）、第17回タイ国日本語教育研究会年次セミナー（2005年3月）で発表した、改訂前のRU 観光シラバスの使用状況を調査したものである。タイ国内のラチャ会会員が所属しているラチャパット大学とその他の大学を対象に実施した。質問項目は以下の通りである。

質問1 RU 観光シラバスをご存知ですか。

質問2 RU 観光シラバスを使っているいらっしゃいますか。

質問3 どのように使っているいらっしゃいますか。

質問4 使ってみて、どうでしたか。感想をお書きください。

得られた回答数は12校で、質問1から3までの結果は以下の通りである。

1. ラチャ会作成の観光日本語シラバスをご存知ですか。
 - ・はい（10校） ・いいえ（2校）
2. シラバスを使っている大学はありますか。
 - ・はい（3校） ・いいえ（7校）
3. どのように使っている大学はありますか。
 - ・観光学科の学生に、ホテル場面・ガイド場面共に使用
日本語主専攻の学生に、ガイド場面のみの使用 （1校）
 - ・観光学科の学生に、ホテル場面のみの使用
日本語主専攻の学生に、ホテル場面・ガイド場面共に使用 （1校）
 - ・観光学科の学生に、ガイド場面のみの使用 （1校）

この結果より、RU 観光シラバスを使用している大学はまだ少ないが、観光学科だけではなく主専攻の観光日本語でも使用されていることが分かった。主専攻の学生に使用している大学からは「場面、会話の流れなどを参考にしている」という回答があった。場面、フローチャートは主専攻の学生にもそのまま使用可能であり、文型、表現、語彙は変更や追加することで使用可能であると考えられる。

また、質問4についても詳しい回答をいただき、改訂の参考にした。

6. 実践報告

ここでは、RU 観光シラバスを使った授業を2つ報告する。これはシラバス作成委員が行った授業である。1つは観光学科の観光日本語（ホテル場面）、もう1つは日本語主専攻の観光日本語（ガイド場面）の授業である。

6.1 観光学科の観光日本語（ホテル場面）

これは、2005 年度前期、カンチャナブリーラチャパット大学で、観光学科ホテル・レストラン事業専攻の4年生6名に行った、観光日本語2の授業である。1コマ50分の授業を、週1回、連続3コマで16週行った。

経営学部観光学科は、1年次後期より日本語学習が始まり、4年次前期で6科目目となる。4年次前期までの総学習時間は約250時間で、3年次前期までに、『みんなの日本語初級Ⅱ』の36課程度まで学習した。3年次後期には、観光日本語1（ガイド場面）を学習し、そのまとめとして模擬ツアーを行った。

6.1.1 シラバス

授業では、RU 観光シラバスのホテル場面を学習項目、会話例ともに、ほぼそのまま使用した。RU 観光シラバス（表1）と、授業で実際に使用したシラバス（表2）の相違点は以下の2点で

ある。1つ目は、「苦情・トラブル」で、RU 観光シラバスの会話例にある「シャワーのお湯が出ない」場合に加え、「部屋の備品が足りない」場合も扱った点である。これは、これまでに使用していた教科書を参考に加えたものである。2つ目は「ツアーの紹介、予約、キャンセル」についてである。「ツアーのキャンセル」は扱わず、カンチャナブリー以外のタイの観光地について取り上げた。カンチャナブリー以外の観光地について調べ、ツアーを考えて発表させた。

表1 RU 観光シラバス（ホテル場面）

	内容
①	チェックイン
②	部屋まで、部屋の説明
③	ホテルのサービス
④	苦情・トラブル
⑤	チェックアウト
⑥	レストラン
⑦	ホテルの予約
⑧	ツアーの紹介、予約、キャンセル

表2 授業で使用したシラバス

週	内容
1	オリエンテーション
2	チェックイン
3	部屋まで案内する／部屋の説明
4	ホテルのサービス
5	苦情・トラブル
6	
7	チェックアウト
8	中間テスト
9	レストラン
10	
11	ホテル予約
12	ツアー紹介、予約
13	
14	タイの観光地
15	復習
16	期末テスト

6.1.2 授業の進め方

授業は、タイ人教師と日本人教師とで1コマ半ずつ担当した。会話文は日本人教師が準備した。前半は、タイ人教師が語彙などの注釈をつけて文法等の説明をし、後半は、日本人教師が実際の場面で使えるように、教室をホテルに見立てて、それぞれの場面で動作もつけて練習した。会話文を暗記させ、翌週日本人教師が会話テストを行った。

また、ホテル場面の学習を一通り終えたあと、復習プリントで学習内容の確認をした。（資料1 参照）

6.1.3 授業の反省点、今後の課題

RU 観光シラバスは、観光学科の学生のレベルに合わせて作られているので、実際の授業では、シラバスの会話例をほぼそのまま使うことができた。

また、タイ人教師と日本人教師の役割分担を決めて毎回同じ流れで授業を行った。そのため、毎回の授業が単調になりがちであった。今後は、学生を飽きさせない授業をすることを課題とし

たい。

資料1 復習プリント（第7週 チェックアウト）

場所：フロント	
S＝スタッフ、G＝お客様	
お客様が来る	S：_____
↓	G：チェックアウト おねがいします。
	S：_____
	G：はい。
支払い金額の確認	S：_____
↓	G：はい。
支払い方法の確認	S：_____
	G：カードで おねがいします。
	S：_____（カードを返す）
↓	G：はい。（サインする）
領収書を渡す	S：_____

6.2 主専攻の観光日本語（ガイド場面）

これは、アユタヤラチャパット大学で2005年前期に日本語主専攻4年生24人に行った観光日本語2の授業である。対象学生のこれまでの日本語学習時間数は約900時間で、学生は前学期の文法の授業で『日本語中級J301』を使用して学習した。1コマ50分の授業を週1回連続3コマで行った。

6.2.1 RU観光シラバスとの比較

RU観光シラバス（表3）とこの授業で使ったシラバス（表4）を比較し、相違点について述べる。

授業で使ったシラバスは、今までにアユタヤラチャパット大学で使っていたシラバスと、RU観光シラバスを参考に考えたものである。出迎えから見送りまでの流れはRU観光シラバス

と同じである。

まず1週目にこの授業で扱うツアーについて説明した。(表5参照) 授業時間の関係上、実際に授業で扱ったのは1日目と2日目と5日目だけである。

表3 RU 観光シラバス (ガイド場面)

	内容
⑨	出迎え
⑩	バスの中で
⑪	日程説明
⑫	観光 (お寺)
⑬	観光 (遺跡)
⑭	タイ料理
⑮	お土産を買う
⑯	トラブル処理 (紛失・盗難)
⑰	トラブル処理 (病気)
⑱	見送り

表4 授業で使ったシラバス

週	内容
1	コース説明・ツアー説明
2	1 課 空港からホテルまで
3・4	2 課 ホテルからアユタヤまで
5	中間テスト1
6	3 課 バンパイン宮殿
7	4 課 日本人町跡
8	5 課 レストラン
9	課題発表
10	中間テスト2
11	6 課 お土産屋
12	7 課 ライトアップ ナイトマーケット
13	8 課 トラブル処理
14	9 課 見送り
15	ホテルでの実務体験
16	期末テスト

表4は、RU 観光シラバスを参考に考えたシラバスであるが、主専攻の学生用に変更した点が2つある。1つ目は、RU 観光シラバスにはお寺・遺跡の説明が入っているが、これらは授業では扱わず、課題発表として学生に会話文を考えさせ、写真や絵を貼ったボードを使って発表させた点である。課題発表の前に、観光地の説明の例として授業では、宮殿と日本人町跡を扱った。

課題発表については、「6.2.2 課題発表について」で述べる。

主専攻の学生用に変更した点の2つ目は、トラブル処理の迷子・紛失・病気を一回で扱った点である。主専攻の学生は迷子・紛失で使用する「～てしまう」などの文型や、病気表現などを既に学習しているので、一回で扱うことができた。

このように、文型や語彙を追加することや、会話例の暗記ではなく自分で考えるという活動を入れるなど、授業を工夫することで、RU 観光シラバスは主専攻の学生にも使用可能なシラバスであると言える。

また、出迎えから見送りまでの授業が終わった後でまとめとして、ホテルでの実務体験を行っ

た。これについては「6.2.3 ホテルでの実務体験について」で述べる。

さらに、シラバスにはない授業時間外での活動であるが、本物の日本語ガイドの説明を聞く機会を設けた。日本人向けの旅行会社に日本語ツアーを申し込み、学生を連れてバンコクのお寺を観光した。日本語での説明を理解するのは難しかったようだが、日本語ガイドがどのような仕事をするのかということはよくわかったのではないだろうか。

表5 授業で扱ったツアー

1日目	空港からホテルへ
2日目	ホテルにて朝食後、船でアユタヤへ バンパイン宮殿・日本人町跡を観光 レストランにて昼食 ワット・モンコン・ボピット お土産屋 ワット・プラシーサンペット ワット・マハタート レストランにて夕食 遺跡のライトアップ ナイトマーケット見学 バスでバンコクへ
3日目	(水上マーケットと市内の寺院めぐり)
4日目	(自由行動)
5日目	ホテルから空港へ

6.2.2 課題発表について

発表は2人ペアで行った。学生はガイド役になり、アユタヤのお寺を紹介する会話文を考え、それを暗記して発表した。実際にお寺にいるつもりで、ボードに貼った写真や絵を見せながら説明させた。

6.2.3 ホテルでの実務体験について

大学のホテルを借りて、ガイド業務の体験を行った。学生はホテルのロビーやレストランでガイド役になり、お客様役の日本人教師と会話をした。実務体験で扱った場面は、①日程説明・チェックイン②1日の予定説明・タイの説明③レストラン④病気⑤紛失の5場面で、この中から事前に1人1場面ずつ選ばせた。

また、授業で扱った会話そのままでなく、例えば①チェックインの場面の場合、会話が終わった後に「朝食はどこで食べられますか。何時からですか。」などのお客様の質問に対応できるかどうかのチェックもした。

実際のホテルで行ったことで、教室にはない臨場感を感じることができたのではないかと思う。

6.2.4 RU観光シラバスを使用して

この科目のシラバスを決める際、現実的なツアーを考えそのツアーの流れに沿って授業を進めることにした。ツアーの内容や、1日の日程は、RU観光シラバスを参考にした。

RU 観光シラバスは観光学科の学生用に開発されたシラバスであるが、ガイド場面で扱うべき内容がお客様の出迎えから見送りまでというガイドの仕事の流れで提示されているという点で、ガイドの仕事をよく知らない主専攻の学生にも分かりやすい場面シラバスであると思う。日本語主専攻の学生にとって RU 観光シラバスにある文型・表現はほとんど既習のものであり、決して難しい内容ではないので、文型や表現の練習にあまり時間をかけなくてもよい。そこで、ガイドの仕事内容やタイの観光地についての知識がほとんどない主専攻の学生のために、それらの知識を補う内容を授業で扱うべきであろう。

7. おわりに

シラバス委員会の会議は、委員がそれぞれ異なった地域にいたため、回数も限られ、その間隔もあいてしまうことが多かった。そのため、Eメールなどの手段も使って、委員全員で方向性や決定事項の確認を常に行い、意思疎通を図っていくことが重要であった。また、委員個人で作成したものを委員会で確認すること、さらに委員会で作成したものをラチャ会会員やその他多くの人に紹介し意見をもらうことが、RU 観光シラバスを完成させる上で、重要なプロセスであった。

今回、この RU 観光シラバスを作成したことで、ラチャ会セミナーの場で提起された観光学科の観光日本語の問題に対するひとつの解決策を見出すことができた。1つの大学、1人の教師だけでは解決できない問題でも、ラチャ会のように境遇の似た大学の教師が集まる場があったからこそ、RU 観光シラバス作成という具体的な取り組みができたのだと思う。

RU 観光シラバスは、ラチャ会で管理しているほか、国際交流基金バンコク日本文化センターでも保管していただいている。ぜひ、多くの方に知っていただき、多くの大学で活用していただきたいと思う。

最後に、RU 観光シラバスの作成・改訂にあたって助言をくださったみなさんに感謝の意を表し、終わりにしたい。

参考文献

- 大野直子(2005)「観光学科の3年生の『カンチャナブリ模擬ツアー』実践報告」国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要 第2号
- 岡部真美子、鎮目怜子、向井あけみ(2003)『サービス日本語ーホテルスタッフ編ー』JALACADEMY 凡人社
- คาซูมิ ศรีจักรวาล, Takako Abe, ปราวณี จงสุจิตธรรม, วีรวรรณ วชิรดิลก, Kiyoshi Nakashima, Hisako Takada และ Takeshi Yoshida. (1993). ภาษาญี่ปุ่นภาคพิเศษ: ไกด์の日本語 1. 泰日经济技术振興協会.
- คาซูมิ ศรีจักรวาล, Takako Abe, ปราวณี จงสุจิตธรรม, วีรวรรณ วชิรดิลก, Kiyoshi Nakashima, Hisako Takada และ Takeshi Yoshida. (1994). ภาษาญี่ปุ่นภาคพิเศษ: ไกด์の日本語 2. 泰日经济技术振興協会.

資料 2 RU 観光シラバス フローチャート付きシラバス (①チェックイン)

①チェックイン 目標: チェックイン業務ができる (フロント)

・～でございますね[確認] (田中一郎様でございますね) ③⑤⑦⑧ ・お／ご～ください (こちらにお名前とご住所、お電話番号、パスポート番号をご記入ください) い) ②④⑤⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯ ・NはNです／でございます (こちらはお客様の鍵でございます) ⑥⑨⑫⑭⑮ ・お／ご～します／いたします (それでは係の者がご案内いたします) ②③④⑧⑩⑪⑮	お客様が来る ↓ ご予約のお客様かどうか確認する ↓ お名前を聞く ↓ 予約者リストをチェックする ↓ パスポートの提示をお願いする ↓ レセプションカードの記入をお願いする ↓ 宿泊日数と部屋タイプを確認する ↓ 部屋番号を伝える ↓ 鍵を提示し、ポーターに渡す ↓ 係りの者が部屋まで案内することを伝える
・いらっしゃいます ⑥ ・おそれいますが (おそれいりますかお名前をお願いいたします) ・～をお願いいたします (おそれいりますが、お名前をお願いいたします) ③⑥⑨ ・少々お待ちください ③④⑤⑥⑦ ・お待たせいたしました ⑤⑦ ・ごゆっくりどうぞ ②	
(N) 案内番号、係りの者、かぎ、記入、～号室、～様、チェックイン、支払い、ツイン、シングル、ダブル、トリプル、～泊 (1～5 ぐらい)、部屋、方法、本日、予約 (V) 見せます (Conj) では	